

## Ⅵ 指導のポイント

令和 6 年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学力検査【本検査】の結果から、「本県の生徒に身に付けさせたい力」を踏まえた指導のポイントを教科ごとにまとめた。確かな学力の定着を図るために、今後の学習指導方法の工夫や授業改善に御活用願いたい。

### 1 国 語

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」  
「我が国の言語文化に関する事項」

#### 【分析】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、概ね正答率は良好であるが、文脈から言葉の意味を思考・判断し、最も適当な漢字を書く力や、品詞を識別する力が不十分であると考えられる。「情報の扱い方に関する事項」は、正答率が低く、特に大問五(6)においては、複数の文章を読み合わせながら登場人物の置かれている状況や心情を理解し、自分の言葉で表現することに課題がみられる。また、大問四(5)(b)及び大問六(5)(b)は無答率も高い。「我が国の言語文化に関する事項」については、大問六(1)の歴史的仮名遣いや(5)(a)の漢文訓読法の正答率は良好であるが、前後の文脈から主語を正確に読み取ることや、文章の表現から登場人物の行動について思考する力が不十分である。

#### 【指導のポイント】

実用的な文章等、社会に流布している様々な文章に触れて漢字の使い方を身に付けるとともに、四字熟語を文脈によって適切に使いこなせるよう、習熟させることが大切である。「情報の扱い方に関する事項」については、複数資料の情報を適切に把握し、条件に従って表現する力を養うために、情報と情報との様々な関係を図式化するなど、情報を整理して自分の考えを形成し記述することを繰り返し行う。また、「読むこと」の指導と関連して、語句の量を増やすことと語句についての理解を深めることを意識し、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取らせる指導も併せて行うことが重要である。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」

#### 【分析】

本検査における「話すこと・聞くこと」の正答率は、ここ数年安定している。「書くこと」の条件作文は、昨年度の本検査正答率が36.8%だったのに対し、41.4%と4.6%高くなった。「読むこと」については、本検査の大問四(3)、(4)「文章の内容の理解」、(6)「文章の構成の理解」、大問五(4)「登場人物の心情の理解」の正答率が低い。文章の内容について表面的な読解でなく、選択肢への置換がどのようにされているかの確に判断できる力が求められる。

#### 【指導のポイント】

「話すこと・聞くこと」に関しては、日々の授業の中で積極的な取組を継続していくことが大切である。「書くこと」及び「読むこと」においては、説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動を通して、自分の言葉でまとめる力を育てることが大切である。今後も、日頃から授業のまとめや感想を簡潔な文章で記す場を設け、記述すること自体への、抵抗感を緩和する取組の継続が望まれる。

## 2 社会

### ○「地理的分野」

#### 【分析】

地理的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好である。基礎的・基本的な知識・技能を問う問題では、「カルデラ」を答える問題（大問 2(3)）の正答率が高い。一方で、政令指定都市について及び県名と県庁所在地名の違いについて答える問題（大問 2(1)）のように、複数の知識を関連付けて答える問題で正答率が低い。

#### 【指導のポイント】

基礎的・基本的な地理的事象や地図の特性を理解し、地図や資料の活用技能の定着を図り、それらを基に諸資料を活用する力を身に付けさせることが大切である。景観写真や統計資料、主題図等から地理的事象や地域的特色を読み取らせる活動を通して、さまざまなことがらに視野を広げ、読み取ったことを相互に関連付けて考察することで、地理的事象の仕組みや原因、他地域との関わりなどについて理解させることが大切である。

### ○「歴史的分野」

#### 【分析】

歴史的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好である。基礎的・基本的な知識・技能を問う問題では、「世界恐慌」について答える問題（大問 5(3)）の正答率が高い。一方で、レポートを読み解き、歴史的事象について自らの言葉で説明する問題（大問 4(4)）の正答率が低く、無答率も高い。

#### 【指導のポイント】

歴史の大きな流れをつかみ、基礎的・基本的な知識の定着を図ることが大切である。また、個別の歴史的事象の関連性や因果関係などを理解するために、生徒が主体的に歴史的な見方・考え方を働かせ、年表や図を用いて簡潔に自分の言葉でまとめ、表現する活動が有効である。生徒が知識を暗記するだけでなく、情報を収集し、読み取り、活用につなげる技能を身に付けさせる指導や、歴史的事象の因果関係について生徒が主体的に考察できるような授業実践が大切である。

### ○「公民的分野」

#### 【分析】

公民的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好である。基礎的・基本的な知識・技能を問う問題では、「刑事裁判」について答える問題（大問 7(1)）の正答率が高い。一方で、指定された語句を用いるなどして自らの言葉で説明する問題（大問 6(2)）の正答率が低く、無答率も高い。

#### 【指導のポイント】

新聞やインターネットなどを活用して、時事的な問題への興味・関心を高めることや、複数の資料を活用し、さまざまな公民的な事象と関連付けて学習を深めることが大切である。例えば、授業の内容と関連した新聞記事やニュース動画を用い、社会の動きと学習内容とを関連付けて考えさせる活動や社会的事象について自らの言葉で要約し、それに対する自分の意見を書かせる指導が有効である。

### 3 数 学

#### ○「数と式」

##### 【分析】

正の数と負の数については正答率が概ね良好であるが、大問 1 (2)②の二次方程式（解の公式）に課題がみられる。

##### 【指導のポイント】

文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるとともに、具体的な事象の数量関係から方程式を立てたり、その解を吟味したりするなど、事象と関連付ける活動をより一層充実させる必要がある。特に、二次方程式の解は大きさが分かりにくい平方根を含む数となる場合があり、得られた解が問題の答えとして適切であるかどうかを調べるのが大切である。

#### ○「図形」

##### 【分析】

円周角の定理等の基本的な内容については正答率が概ね良好であるが、大問 1 (7)②の作図や大問 3 (2)の三角形の合同の証明、大問 3 (3)の相似の応用については課題がみられる。

##### 【指導のポイント】

観察や操作などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりするなど、考察を促す指導が必要である。また、証明問題については、証明を振り返り、条件がどのように用いられていたかを確認するといったような活動を通して、論理的に考察する力を養うのが大切である。三角形の相似については、三角形の合同条件と対比させながら、作図を通して直感的に理解させた後に、論理的に理解させるのが大切である。

#### ○「関数」

##### 【分析】

点の座標を求める基本的な問題については正答率が概ね良好であるが、大問 2 (2)や大問 4 (2)(3)のような思考力を問う問題には課題がみられる。

##### 【指導のポイント】

具体的な事象との関わりを持たせながら指導する必要がある。数学的に解釈し、変化の特徴を見いだしたうえで、式やグラフなどを用いながら他者に説明するような場面を積極的に設けることで、思考力、判断力、表現力等を育てることが大切である。

#### ○「データの活用」

##### 【分析】

確率の基本的な問題については正答率は概ね良好であるが、大問 1 (5)②の確率において課題がみられる。

##### 【指導のポイント】

日常生活や社会に関わる問題を取り上げて指導することが重要であり、説明し伝え合う機会を設けることで、理解を深めるのが大切である。

## 4 理 科

### ○「第1分野・物理的領域」

#### 【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は良好である。実験装置を理解し、実験結果を正確に読み取り、計算する問題（大問6(2)②）、知識を活用しながらグラフで表現する問題（大問6(3)）で正答率が低い。

#### 【指導のポイント】

実験装置を思考しながら組み立て、実験結果を基に視覚的に捉えにくい仕組みを理解させる。また、実験結果をグラフや図で表現して考察させ、物理現象について理解を深めさせることが大切である。

### ○「第1分野・化学的領域」

#### 【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は良好である。化学変化について化学反応式（大問8(1)）や、反応の仕組みについて文章で表現する問題（大問8(2)）で正答率が低い。

#### 【指導のポイント】

実際に実験を行い、実験で起きた反応や関連する日常生活で起こる反応について化学反応式で表現させる。また、実験結果を分析し、考察した結果を文章で表現させ、化学変化について理解を深めさせることが大切である。

### ○「第2分野・生物的領域」

#### 【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は良好である。対照実験の方法を文章で表現する問題（大問3(1)）や、生態系内での炭素の移動についての問題（大問9(4)）で正答率が低い。

#### 【指導のポイント】

実験の仕組みや観察方法について、用語を正確に用いながら、文章で表現させる。また、生物の間のつながりのように、図にまとめ、既習の知識と関連付けて図の説明をさせ、生物現象について理解を深めさせることが大切である。

### ○「第2分野・地学的領域」

#### 【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は良好である。資料や文章で表現された地学現象を正確に読み取り、既習の知識を活用して思考し、作図（大問5(4)）や計算（大問7(4)）をする問題で正答率が低い。

#### 【指導のポイント】

まず、日々の天気、新聞等で取り上げられる天文現象、身の回りの地層などについて取り上げ、学習内容との関連を考えさせる。地形の特徴や重なりについては、スケッチや作図をしてまとめさせる。また、天体の運動については、作図や計算をさせながら考察させ、地学現象の時間的・空間的な変化について理解を深めさせることが大切である。

## 5 英語

### ○「聞くこと（話すこと）」

#### 【分析】

基礎的・基本的な知識及び技能の定着は概ね良好である。大問 2 No. 2、大問 4 ②は、正答率が低い。これらの問題に共通していることは、解答に必要な英語が、放送される英語とは別の表現に換えられていることである。

#### 【指導のポイント】

英語の音声を聞き取る力とともに、目的や場面、状況などに応じて、何を聞き取るべきか判断し、情報や考えなどを理解する力を育成することが大切である。そのために、音のつながりなどを意識した音読などを通して英語の音声を認識する力を育てるとともに、聞き取った情報をまとめたり、概要や要点を話して伝えたりする活動などを通して、情報を整理しながら聞き取ろうとする態度を養うことが重要である。このように他の領域と効果的に関連付けた統合的な言語活動を意識して行うことにより、コミュニケーションを図る資質、能力をバランスよく育成したい。

### ○「読むこと（話すこと）」

#### 【分析】

大問 7 (2)の必要な情報を読み取る問題及び大問 9 の対話の空所に入る英語を選択する問題の正答率は概ね良好である。一方で、大問 7 (1)③の情報を読み取り空所に適語を補う問題、大問 8 (2)の文章の内容を踏まえて空所に英語を補う問題（どちらも記述式）の正答率が低く、無答率が高い。また、大問 8 (5)の内容に合う英語を選択する問題の正答率が低い。

#### 【指導のポイント】

多様な英文に触れ、「必要な情報を読み取る」「概要を捉える」「要点を捉える」など、目的に応じて様々な読み取り方を指導することが大切である。

また、読み取った内容を簡潔に伝える活動や、内容に対する意見を述べる活動、さらにそれを書いて表現する活動など、内容を把握するだけでなく、領域間の統合的な言語活動を工夫することが大切である。

### ○「書くこと（話すこと）」

#### 【分析】

大問 6 は、イラストからその場面や状況をとらえ、会話を完成させる問題であるが、無答率が高い。令和 5 年度全国学力・学習状況調査の結果、千葉県課題として、記述式問題の無答率が高いことがあげられていることから、「書くこと」の指導の一層の充実を図る必要があると言える。

#### 【指導のポイント】

正しく書くことは大切であるが、そればかりを気にすると、間違いを恐れて、書くことをしなくなる。口頭練習を十分にしてから書く活動をするなど、様々な工夫をし、間違いを恐れずに取り組む雰囲気を作ることが大切である。

また、知っている単語や表現を駆使して意図する内容を伝えることができるよう指導することも重要である。